

地獄は自分が作ります 極楽は阿弥陀仏が創ります

親鸞聖人げんぜりやくわさんの書かれた現世利益和讃という十五首の歌があります。九首目に「なもあみだぶつをとなえると、閻魔大王が尊敬し、閻魔大王の家臣が夜昼常に護ります」とあります。有難いことですが、もう少し違う角度から見てみますと、地獄はどこにあるのでしょうか。それは自分が作り上げる妄想です。

自分が行く地獄は存在を否定しますが、自分にとって憎い奴や恨んでいる人に対しては、自分が作ってでも地獄に落としたいと願望します。言い換えれば、閻魔大王になりたい自分が存在します。閻魔大王の本当の姿は、阿弥陀如来(地蔵菩薩の化身とも言われます)だと言われます。自分が描いている妄想で、相手の言っていることが理解できずに対立していると感じると、人はその相手を怖い存在と思います。自分のためにアドバイスしてくれたと正しいものの見方ができた時、相手がほとけさまに見えます。「地獄にほとけ」とは、地獄という自分が作った妄想の世界に真実の仏陀が化身となって私を救うために顕れたことを表現しています。反面、相手のために懇切丁寧に教えても反発して通じない時があります。その時の相手から見れば、自分も地獄を司っている閻魔大王や悪魔に見られています。

なもあみだぶつを唱えている私達は、絶対真実の智慧を授かっているから、地獄を描いていても、いつも地獄にほとけの状態じごくにほとけのじょうたいで過ごしていることとなります。この世という地獄で阿弥陀仏に出遭って救われたのですから地獄の苦しみから解放されたのです。それを、お浄土(極楽)に生まれた状態、弥勒菩薩と同じ存在になったと親鸞聖人は言われたのでした。合掌

写真は興元寺の薔薇

